

---

# 暴力

三等

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

暴力

### 【Nコード】

N7244U

### 【作者名】

三等

### 【あらすじ】

異常なまでの暴力

暴力の限界とは

暴力の価値とは

## 朝

こんな人生なら、死んでいた方がましかもしれない  
俺はいつもこの答えを考えていた

「起きなさい」

母の無感情な声が耳に届く

その直後ガチャン、とぶつきらぼうなドアの音がした

また、同じ窓

昨日も見えた窓

今日は木曜だから、水曜も見たということになる

起きてすぐ窓が見えるのは、俺が左を向いて寝ないと落ち着かない  
から

俺はそのそと体を起こしてみた

「またか」

勝手に、口が動いて声を発しているのに「またか」を言い終えてか  
ら気づいた

それから足をベッドの横へ投げ出し立ち上がるのだが

全く、毎日この時間帯にはやる気が出る気配がない。

「学校、サボろうかな」

これは「またか」とセットであり、もちろん毎日口になっている

俺には分かっている、今日も俺は学校に行くと思う

絶対そうだ、自分のことだからよくわかる

ふと自分の体を見ると制服が身に纏われていた

意識しないうちにも着替えが出来てしまうのだから、習慣というも  
のの恐ろしさに感心する。

そのあとは歯を磨き、寝癖を整え、かばんを持ち、靴を履いて、家  
を出る

何時もは何の問題もなくこの毎朝の流れをこなしていたのだが、今日はずこし手間取った

詳しく言うと「かばんを持ち靴を履いて」間で

部屋が2階なので、1階に下りて玄関に向かう途中の物置部屋  
本当は5畳ほどの和室なのだが、使うことがなかったので勝手に物置部屋になってしまっている

その和室風物置部屋のドアの下に、血のようなものが付いているのが気になった

「誰か鼻血でも出した？」

ひとりごとのような、母に聞くような曖昧な声量で言った

母から返事はない。

聞こえてないのだろうか

いや、聞こえていたとして返事などはしてはくれないだろう

まあ鼻血がなんかだろう、と頭の中で結論づける

家の扉を開けた瞬間、そんなことなど記憶の片隅にも残ってはいなかった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7244u/>

---

暴力

2011年10月9日09時48分発行